

10月は「無駄な遅刻撲滅月間」

本校が「遅刻ゼロ」を目指して取り組んでいることは、ご存じの通りだ。理由のない無駄な遅刻は、計画性の欠如による自己中心の甘えに過ぎない。それは、決して社会で通用するものではない。「凡事徹底」ということを殊更皆さんに伝えるのは、高校を卒業した後が大切だからだ。時間を守るということは、自分を守ることはもちろんのこと、他者を尊重することに他ならない。自分の所為（せい）で相手の大切な時間を奪ってはならないということだ。皆さん一人ひとりが意識できていれば、生徒会のメンバーにわざわざ校門に立ってもらうこともない。今の状態でも、生徒会のメンバーの貴重な時間を奪っていないか？

実りの秋には、収穫への感謝

この時期には、美味しいものがたくさんある。「天高く馬肥ゆる秋」という言葉もあるように、秋になり、雲が高いところに存在するようになって、空が高く感じられるこの季節は、収穫の時期を迎える作物が多くなる。夏の暑さを忘れて涼しくなると、食欲も旺盛になる。野生動物などは、食物の少なくなる冬を前にして、身体に脂肪を蓄えていく。人間もどこかにその野生の本能が残っていて、この時期に美味しくなくなった食べ物を楽しみ、丸みを帯びる人が少なくない。ただ、死ぬまで健康で生きる丈夫な身体を培うという意味では、これも本能だから、しっかり食べて、適度に運動することが皆さんの年代には必要だ。

作物の収穫は、今でこそ科学的な研究も進み、安定的に供給されるようになったが、それでも天候に左右されてしまう。昔の人は、自然への畏敬を込めて「天の恵み」という言葉で表現した。この時期各地で催される祭礼は、今年の収穫を神に感謝する大切な行事だ。播磨地方の有名なところでは、灘のケンカ祭り、大塩の獅子舞、魚吹の提灯祭りなどがある。地元でも先日北宿の賀茂神社で獅子舞の奉納が行われたので参列した。日本だけでなく10月31日のハロウィンももともとは収穫祭だ。

勉強は何のため？

明日から中間考査が始まる。学生が一度は考える「勉強は何のためにする？」について、考えてみよう。

「資格を取るため」「進学するため」「就職するため」など、様々な回答が予想される。これらの回答は当然それぞれ正しい考え方だ。小学1年生から教室で授業を受けている。その時のこれまで知らなかったことがわかるようになるあのワクワク感を覚えているか？それがいつの間にか、苦痛に変わっていった経験もしたことだろう。それこそ、勉強する意味を見失った時だ。逆に自ら選択し、主体的に取り組むと面白いようにどんどん身についていく。それを見つけることが今必要だ。YOASOBIの群青にも「好きなものを好きだという怖くて仕方ないけど本当の自分出会えた気がしたんだ」とあるように。

藤沢周平の『たそがれ清兵衛』に勉強する意味について次のように語るシーンがある。「学問すれば考える力がつく。考える力がつくと世の中どう変わってもなんとかして生きていける」暗記だけが学力ではない。様々な教科の考え方を通じて、考える力を身につけることが大切なのではないか。10月12日付朝日新聞に、人はなぜ学ぶのですかという問いに対して、「『その方が面白いからです。』」学びを通じて新たな視点を得ると、世界が違って見える」と人類学者の磯野真穂氏が述べている。もちろんこの答えは、君たち自身が見つかることではあるが、ヒントにはなるだろう。とりあえず中間考査、がんばれ！

淡路島に行ってきた

10月10日、サッカーの県大会が淡路の佐野運動公園で実施されたことから、応援に行ってきた。相手は地元の蒼開高校。選手を集め、強化している学校だ。相手が90%ボールを支配するような展開だったが、最後まで走り負けることなく、1-4と一矢を報いた。努力は自分を裏切らない。

その際、昨年6月に講演していただいた出雲社長のパスタのお店「DANMEN」に行ってきた。佐野運動公園から車で5分の所にある。2・3年生は講演の際、半生のパスタをいただいたはずだ。淡路の食材をふんだんに使用し、生パスタの種類は一目見ただけでも20種類ぐらいあった。現地でいただく生パスタは、格別だった。お約束はしていなかったが、たまたま社長がお越しになり、お会いできた。講演の際の君たちの印象を「真剣に聴いてくださって嬉しかったのを覚えています」と仰っていた。自分で運転できるようになったら、是非一度訪れてみてほしい。並ぶのを覚悟して・・・。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩